

研究評価委員会分科会の各委員からの所見について(中間評価)

課題名「建築物の早期地震被害推定システムの開発」

1. 主な所見

- ・ 所見 : (進捗状況に関する意見)
 - ・ 少し遅れ気味のようなものである。長期的視点で計画を実施し、大きな枠組み作りという視点で考える必要がある。
 - ・ 概ね順調と思われるが、研究開発の具体的計画にある項目について、具体的に、どのあたりまで終了している / 積み残している かにについて明確さが欲しいと思われる。
 - ・ 平成 17 年度に何をやるのかについてももう少し明確さが欲しいと思われる。
 - ・ 目標に、どこまで準備されるのかが必ずしも明瞭ではなく、もう少し明瞭なアウトプットのイメージを提示して欲しかった。
- ・ 所見 : (研究の進め方に関する意見)
 - ・ むしろ、1 国に絞った case study を進めることにより、より使いやすい有用なものができるのでは。
 - ・ 展開先の各国のニーズ、情報の多寡を今までに培った人的ネットワークを利用して把握し、各国と共同して実施する必要がある。1 国を対象に突き進めば自ずと成果は見えてくるように思う。
 - ・ 限られた予算と時間を考慮して、相手国を絞ったプロトタイプ作成が、大目標への近道ではないかと感じた。
- ・ 所見 : (成果物に関する意見)
 - ・ 成果は大いに期待できるが、欲張らずに長期的視野に立って地震動推定の手法を構築することが重要。インターネット上の公開が必ずしも最終成果物でないと思う。
 - ・ 海外での利用が目的であるため、海外関係機関との連携を強くし、骨太なシステムを目指す。
 - ・ 研究戦略の 3 本柱の一つ「国際的な地震防災技術情報ネットワークの構築」具体的にどのようにコミットするのか、全体像が見えにくい。そのため、ガイドラインの内容がやや不鮮明である。
 - ・ 手法の要素の提供に加えて、HP 上での表示などにも工夫して、多くの国からアクセスされるようなシステムにしていきたい。

2. 主な所見に対する回答

- ・ 所見 に対する回答：

本研究課題は、国際的な地震防災技術情報ネットワークの構築の一環として、途上国が利用可能な形での、建築物の早期地震被害推定に関わる知識データベースの構築をめざしたものである。現在、収集された手法をシステムとして利用できるようなフォーマットに整理している段階であり、順次、インターネット上に公開する予定である。また、どのようなシステムが利用しやすいのかなど、システムの基本的な設計には、ユーザーである途上国の意見を入れた試行錯誤が必要と考える。また、膨大な手法がデータベースとしてありうるので、研究期間内では、ある程度まとを絞り、基本的なシステムの構築を目指して、その後に継続してデータベースの拡充を図れるようにしたいと考えている。

- ・ 所見 に対する回答：
ルーマニアを対象に、システムを適用した場合のプロトタイプを作成することとしたい。しかしながら、途上国により地震環境や建物の構造特性等が異なるため、ある途上国の例がすべてに当てはまるとは限らないので、特定の国を対象としたケーススタディに加えて、広く手法を収集していくことも重要と考える。また、研修生からの情報提供や現在ある「地震防災技術情報ネットワーク」との連動により、途上国からの情報をシステムに反映した、相互に情報交換が可能なシステムを構築したいと考えている。
- ・ 所見 に対する回答：
指摘していただいたように、情報の発信の仕方を工夫して、途上国にとって利用価値のあるシステムにしていきたいと考えている。また、日本からの情報の一方通行とならないように、相互に情報をやり取りし、途上国との協力でシステムが成長していくようなものを目指している。